

いのはな便り

肺がん CT 検診認定機構メールマガジン
第 3 号 (2014 年 7 月)

第 12 回肺がん CT 検診認定技師講習会・認定試験 第 4 回認定技師更新講習会の報告

結核予防会 複十字病院 放射線診療部副部長
肺がん CT 検診認定機構 副代表理事

花井 耕造

平成 26 年 7 月 19 日(土)と 20 日(日)に認定機構主催の第 12 回肺がん CT 検診認定技師講習会・認定試験、及び第 4 回認定技師更新講習会が滋賀医科大学で開催されましたので報告します。

技師部門の講習会は年 2 回、開催されます。毎年この時期に開催される滋賀医大での講習会は暑い太陽の日差しの中、滋賀医大の建物の影と蝉の鳴き声と汗が一体となって夏の記憶として残ります。

今回の認定技師講習会・認定試験は全国 212 施設より 244 名の応募があり、その中から 106 名が選考され受講されました。認定技師部門では申込者が多い場合に事務局において選考し、検診施設に従事されている方が優先されます。今回も 2.3 倍の倍率でした。講習会の後に行われる認定試験では筆記試験と共に、パソコンを用いた異常所見検出試験が行われました。

100 席(台)を超えるサーバー管理下のパソコン教室を持ち、その環境を認定試験で使用できる情報処理施設はほとんどないのが現状です。現在、我々が使うことができるのは、関東の駒澤大学(200 台の PC)と関西の滋賀医大(118 台の PC)の 2 施設だけです。このため講習会は一度に 100 人前後、年 2 回の開催が精一杯であり、多くの方々が受講できないのが現状です。

施設環境だけ整っても 2 日間の講習会を行うことはできません、施設側の肺がん CT 検診の普及への理解と協力、そして人材育成に対する情熱が得られることが必須な要件となります。滋賀医大では村田喜代史先生、牛尾哲敏先生を中心とした放射線科スタッフの全面的な協力を得て講習会を開催することができます。講習会を終える度に、いつも感謝の気持ちで一杯になります。良い人材を育て、CT 検診を通じて肺がん死の低減に寄与することで御恩返しをしたいと常に考えます。

更新講習会では胸部 X 線写真を中心に展開する伊藤春海先生の肺の基本

構造の講義が圧巻でした。更新講習会の受講生は認定後に検診現場で5年間の認定技師としての経験を積んだ方が多く受講生の講義を受ける目が輝いているのを感じました。また講義の準備に迅速に、臨機応変に対応をして頂いた滋賀医大スタッフの行動力も素晴らしいものがあります。現在の認定技師の総数は963名、今回の第12回講習会での合格者を加えると認定技師は1000名を超えます。同時に認定期間5年目を迎える認定技師の更新講習会への受講者も多くなってきました。

NLSTでのCT検診による肺がん死亡率低減の証明、USPSTFによる肺がんCT検診に対するグレードBの評価、米国肺癌学会の肺がん検診に対するガイドライン改訂などCT検診に対する良い香りの風が吹いています。今後、安全で精度の高いCT検診をいつ、どこの施設でも、安心して受けることが出来る体制の構築と人材育成が日本におけるCT検診の普及の鍵と考えます。

講習会などのお知らせ

第7回 認定医師更新講習会 兼 認定医師新規認定講習会

日時：平成26年8月31日（日）

会場：富士ソフト アキバプラザ5階 アキバホール（東京都）

追加申し込みも定員に達しましたので終了致しました。

また、2月の大阪での日本CT検診学会学術大会に併設して第8回の講習会も行う予定です。

これら2回の講習会を受講しないと認定医の資格を失う方が、認定番号829番までの中で、293名いらっしゃいます。講習会をぜひお受けになりますようお願いいたします。

第17回肺がん画像診断セミナー in DAIBA

日時 2014年9月14日～15日

場所 ホテルグランパシフィック LE DAIBA(東京都、お台場場)

世話人： 神奈川県立がんセンター 山田 耕三

<http://odaiba-haiganseniner.kenkyuukai.jp/event/>

本セミナーは、肺がんの特化し、CT画像、CXRを中心に読影演習と胸部CT、CXRの読影の基礎を徹底的に勉強します。本セミナーは当機構の副代表理事の江口研二先生が代表世話人です。

編集後記：

早々と来襲した台風で被害の出ている地域もあるようですが、皆様方のほうではいかがお過ごしでしょうか。

さて、今回は先日行われました認定技師の講習会・認定試験の様様につ

いて花井耕造副代表理事に報告していただきました。会場の関係で受講できるのは100人前後とのことで、毎回定員の数倍の希望者があるようで頼もしい限りです。

医師の講習会に関しても、今年8月あるいは来年2月の講習を受講しないと資格を失ってしまう方がかなりいらっしゃいますので、8月の受講希望者が多く、急遽サテライト会場を用意しました。

現在、認定施設の認定基準の作成に取り掛かっておりますが、常勤の認定技師と認定医師が在籍していることは、最も基本的な条件の一つになると思います。したがって全国に空白地域を作らないことが重要ですが、今回の試験で認定技師も1000人を超えたとのことですので、ほぼ実現したのではないかと思います。認定医師の方々も更新をお忘れなきようお願いいたします。

先日、聖路加国際病院で日本がん検診・診断学会の学術総会が開催されました。最後のセッションで各臓器での過剰診断の問題が取り上げられましたが、それぞれの臓器において、診断技術の進歩により、死亡する危険性の少ないおとなしいがんまで発見し、不要な治療が行われているのではないかという問題が議論されました。

CT検診で発見される肺がんには過剰診断が多いのではないかという海外からの論文発表もあり、がんが疑われればすべて治療しなくては行けないという時代は終わりに近くなってきています。

学会で作るガイドラインの変更などがあれば随時お知らせしていきたいと思っております。

また、論文にするほどでもない一寸した工夫や思い付きなどの投稿や、撮影・読影などに関する質問なども受け付けますので、お気軽に事務局までご連絡ください。(文責：金子昌弘)

いのはな便り 第3号 2014年7月31日発行

〒260-0856 千葉市中央区亥鼻3-6-6 イノハナビル3階
有限会社エッセン内 「肺がんCT検診認定機構事務局」

編集責任者 金子昌弘

TEL：043-226-1298

FAX：043-226-1299

E-mail: jimdai@ct-kensin-nintei.jp

WEBSITE: <http://www.ct-kensin-nintei.jp/>